

第5回伝統文化振興賞

輪島土蔵文化研究会

石川県輪島市

Wajima Dozo Culture Renovation Center



2007年3月25日に発生した能登半島地震では、数多くの土蔵が損壊した。土蔵の修復に対する公的な補助制度がなく、逆に取り壊しを支援する制度があるため次々に取り壊されていき、その数は輪島市内だけで1年間に約600棟にのぼった。土蔵は湿度や温度を一定に保ち、埃を遮断する特性に優れているため、輪島塗や日本酒醸造の重要な産業基盤（製造兼保管空間）である。土蔵の消滅は、地場産業の根幹を揺るがすだけでなく、地域の気候風土に合った建物の建築技術が途絶えてしまうことを意味する。

その状況に危機感を募らせた我々市民グループは、土蔵の修復支援による地場産業の復興と建築技術の伝承ならびに新たなまちづくりを目指して、地震の数日後から活動を始め、半年後にはNPO法人を設立し活動を続けている。

土蔵が地震で被災した原因を明らかにし（課題把握）、その技術的な問題を改善し（技術改良）、土蔵修復技術を職人に修得させ（職人育成）、被災前よりも魅力的な街を創出する（拠点創出）、という4つの複合型のまちづくり活動を展開してきた。

これまで7年間の連続ワークショップ活動を経て、以下のような成果を挙げることができた。我が国を代表する左官職人久住章氏を総監修に迎え入れ、彼が考案した4タイプの「地震に強い土壁構造」を研修できるワークショップを開催した結果、全国から100名近い左官職人が輪島まで何度も足を運んだ。

「土蔵修復技術を学ぶのなら輪島へ行け」と言われるまでになった。その研修プログラムを通じて、土壁用の鏝を揃えたり、転職して左官見習いになったりした者が5名おり、職人同士のネットワークも広がった。

修復支援した土蔵は全部で9棟を数え、輪島塗ギャラリー、交流サロン、左官技術研修場、セミナーハウスなどのパブリックスペースに生まれ変わった。被災前とは異なる魅力を持ち、土蔵群を見学しながら街歩きを楽しめる新たな滞在型回遊観光への道が開けた。寄付金を通じて、地場産業生産者とも双方向に「真心のキャッチボール」ができる「土蔵へどうぞ」という新たな寄付システムを構築し、実績を挙げることができた。



A dozo is one of Japan's traditional architectural structures, which was used during the Edo Period (1603–1868) to store valuable commodities ranging from rice to gunpowder. In Wajima, known for its lacquerware, the dozo also provided excellent space for craftsmen to work with lacquer that requires consistent temperature and humidity. In the aftermath of the 2007 earthquake in Wajima, the government's reconstruction plan led to the destruction of the damaged dozo due to safety concerns as well as the lack of comprehensive support measures for restoring historical structures such as the dozo. As a result, nearly 600 of them disappeared from Wajima's landscape within a year. In response, the Wajima Dozo Culture Renovation Center initiated a laborious project to preserve the local history by repairing the damaged dozo. Moreover, the group has innovatively utilized dozo as community space for educational events and concerts, as well as venues for displaying Wajima's own extraordinary lacquerware culture. The organization has also initiated a training program for younger builders to acquire the specific expertise needed to repair the dozo. The research center's initiatives successfully made dozo into accessible spaces for local residents to actively appreciate the region's traditional inheritance.





左官技術への確信と若手職人への明るい灯

特定非営利活動法人 輪島土蔵文化研究会
理事長 水野雅男

「我々の活動は世界水準」ティファニー財団賞の連絡を受けたときにそう感じました。この活動を始めてから数多くの左官に出会い、土壁を塗り上げる左官職人の鍔さばきに魅了されました。竹小舞をかき、荒壁、むら直し、中塗り、漆喰仕上げなど、数多くの工程と時間を経て造り上げていく技術力、そして土壁の精緻さと美しさは世界屈指のものです。世界に誇れる左官職人の技を途絶えさせない、新たな担い手を育成するのが我々のミッション。しかも、地震などの自然災害大国日本において、修復技術を継承することは21世紀社会においてなくてはならないものです。

「世界水準の左官技術を伝承している」これまでワークショップに参加された職人やボランティア、活動を資金面で支援くださった方々など約1,000名の活動仲間にとって、大きな誇りと確信となりました。受賞のニュースは、地元輪島市民だけでなく、国内の地域づくり関係者にも広く知れ渡ることとなりました。さらに、左官技術や左官職人にも光が当たり、若手職人に明るい希望を抱かせるものとなりました。精神的に大きな後押しをいただいたことに感謝し、これからも一歩ずつ活動を続けていこうと思います。